2009.11.13 (担当:佐藤)

□ キーワード:階数,解の自由度

階数 -

 $m \times n$ 行列 A を行基本変形により(簡約)階段行列に変形したとき、0 でない行の個数 r を行列 A の階数といい, $\mathrm{rank}(A)$ で表す. $\mathrm{rank}(A) \le \mathrm{max}\{m,n\}$ である.

階数と連立方程式の解の自由度 -

A を $m \times n$ 行列とする.

斉次連立方程式 Ax = 0 の場合

• $\operatorname{rank}(A) = n$ のとき,

$$A \xrightarrow{\overline{\text{fisagr}}} \left(\begin{array}{c} E_n \\ O \end{array} \right)$$

となることを意味する。このとき、Ax = 0 は非自明解を持たない。

• r = rank(A) < n のとき,Ax = 0 は式の数が r 個,未知数の数が n 個の方程式に簡約化される.すべての式に共通に含まれる未知数は (n-r) 個であるから,Ax = 0 は非自明解を持ち,解の自由度は (n - rank(A)) である.

一般の 1 次連立方程式 Ax = b の場合

- $rank(A \mid b) \neq rank(A)$ のとき、Ax = b は解を持たない。
- $rank(A \mid b) = rank(A) = n$ のとき、Ax = b は解はただ 1 つに決まる.
- $\operatorname{rank}(A \mid \boldsymbol{b}) = \operatorname{rank}(A) < n$ のとき、 $A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b}$ は解は無限個あり、解の自由度は $(n \operatorname{rank}(A))$ である。

問題 **3.9.** 問題 3.1, 3.5, 3.6, 3.7 の各連立方程式 Ax = b に対して, (i) $\operatorname{rank}(A)$, $\operatorname{rank}(A \mid b)$ を求め, (ii) 階数と解の存在性, 自由度の関係(上で述べた事)を確認しなさい.